

2023年5月29日

学校法人東京 YMCA 学院 2022 年度報告

I. 運営基本方針

2022 年度、新型コロナウイルスが蔓延し 3 年目の年となった。今年度は各園各校ともウイズコロナの時代に対応した教育を展開した。出生率低下が続き待機児 0 の時代を迎え超少子高齢化の時代、18 歳人口減少化の時代中の幼稚園、こども園、専門学校から成る学院の存立基盤は園児、学生数は減少化しているが質の高い時代の要請にこたえる教育を展開していった。

A. 各園・各校の使命と目的を明確にし、人々から選ばれる存在となる。

1. 園児・学生数の動向

a. 江東幼稚園の 2022 年度園児数の減少は前年比-17 名減となったが、2023 年度募集園児数は前年比-20 名となった。近隣地域の出生率の減少によるが、保護者・園児の多様性に応える運営形態に変化した。具体的には①預りクラス開設（8:00～17:00）。②こぐま広場開設（園の開放を行い広く園を知ってもらう）。③SNS やHP での宣伝媒体を使つての募集。

b. しののめこども園の 2022 年度の園児数は前年度より 1 名増。2023 年度募集園児数は前年度の 22 名減。見学会の回数を大幅に増やし、また職員により分かりやすい園の案内に努めた。

c. 医療福祉専門学校の 2022 年度学生数は前年度比 2 名増。2023 年度募集は-9 名減となった。高校ガイダンスによる多摩地区の高校訪問と来校生へのアプローチを主とした広報活動を展開した。作業療法科は SNS やHP 等による問い合わせによる広報が主となった。

2. ミッション

a. 園児学生の成長のためキリスト教に根ざした全人教育を行う。医療福祉専門学校は全学生が資格取得できるように指導を行った。介護福祉士全員合格。作業療法士は 82% の学生が資格を取得することが出来た。

B. 江東 YMCA 幼稚園再開発計画の策定

1. 江東 YMCA 幼稚園将来展望職員タスク

a. 年 4 回開催し、江東 YMCA 幼稚園の課題の抽出と課題解決のための作業を行った。

①支均衡化への方策（2020～22 年度 事業活動収支では黒字を達成）

- ②少子化への対応（組織の変容 A4。募集 A5 のあり方の変更）
 - ③施設老朽化への対応（大型営繕計画の立ち上げ）
 - ④幼稚園の方向性
 - b. 幼稚園型こども園の設立を目指し、江東区教育委員会とも協議の時を持った。
 - c. こども園設立のための建替の支援（国 50%。区 25%、自己 25%）は待機児 0 となり江東区としては行わない。
 - d. 2024 年にこども園設置は取り下げ、新法幼稚園を検討する。
 - e. 型営繕を行い施設の老朽化への教育環境を整える。
 - ①児が幼稚園のトイレを怖がる。水流音が大きい。出来れば水洗トイレ。
 - ②レク棟の床の凹凸があり危険な状況。
 - ③か所の雨漏り（レク棟・ピアノ室・クラス）があり、水に濡れる。
 - ④開園中の自動ドアの手動による出入りへの施錠されていない不安。
 - f. 少子化への対応（保護者・園児の多様性に対応）
 - ①多様な対応クラス開設（2号：にじっこクラス。1号：くまっこクラス）
 - ②延長保育時間変更（8:00～2022 年度：17:00。2023 年度：18:00）
 - ③3 児クラス（つくしっこクラス 2021 年度開設）
 - ④こぐま広場（子育て支援・幼稚園体験グループ活動）
 - ⑤食弁当の実施（2023 年度～）
 - ⑥にじの会（保護者会）の奉仕の軽減。
 - g. 広報の強化
 - ①SNS の発信。HP の強化。
 - ②見学会・説明会のハイブリッド化
 - ③園児募集ポスターの園児宅掲示のご協力
 - ④こぐま広場ポスター掲示(子育て支援センターみずべ・児童館・小規模保育所)
 - h. 隣地取得のための交渉
 - ①玄関横隣地の取得のための交渉（値段が折り合わず休止）
 - i. 学校関係者評価委員会による自己評価実施とHP掲載
2. 江東 YMCA 幼稚園将来構想委員会の開催
- a. 2024 年度から 2026 年度(75 周年)三ヵ年計画策定
 - b. 江東幼稚園を中心とした地域包括センターとしての在り方の検討
 - c. 地域が必要とする江東幼稚園のありかたの検討。
 - d. 江東 YMCA 幼稚園の歴史的評価と将来構想の策定都(設立 80 周年に向けて)
—中期計画策定

C. YMCA としての学校法人のあるべき姿を模索し具現化する。

1. 各3施設にて少子高齢化時代とコミュニティーにおける各園と学校のあるべき姿を検証し、江東区石島地区にある幼稚園、東雲地区にあるこども園、国立市にある医療福祉専門学校のある在り方、市民社会のありかたを検討する。
2. 現代における YMCA、ミッションスクールのありかたの検証を行う。
3. 園児・学生数に左右されにくい教職員組織と運営体制の構築のための検証を行う。

D. SDGs に応える組織に変革する。(3施設での具体的な実行)

- A. 17の持続可能な開発目標(4.3.1.2.5.10.16.17)を実行していける法人となる。
- B. 脱炭素のための努力を行う(節電、節水。住み続けられまちづくり)

江東 YMCA 幼稚園

I. 安定的な園児募集に努める

A. 園児数(2022 — 2023)年少クラスの募集が激減した。1)B. の

年少	42	—	20
年中	37	—	41
年長	40	—	38
合計	119名		99名
2歳	7	—	13
預り	11	—	25(2号認定)

B. 保護者・園児の多様性を生かした子育ての場の創設

1. 預かりクラス開設(2号だけでなく、1号も)
14時までは幼稚園、14時以降17時まで預り保育の形態で行う。2023年度から8時~18時の預かりとする。
2. こぐま広場(月1回0歳児親子からの園内遊びを体験。年4回実施。)地域の子育て支援の場だけでなく、広く江東 YMCA 幼稚園の良さを知っていただく広報の機会となる。
3. 給食弁当の実施を検討
給食弁当を希望する保護者向けに業者のお弁当を選択することを2023年度より実施する。
4. 虹の会の奉仕活動の軽減化
近年保護者負担が大変(手芸作成・準備会出席)と訴える保護者も増えている。バ

ザーや年間行事への保護者負担が多く、保護者間での就労している保護者と較差が出ている。

5. 広報へのテコ入れ

C. 江東 YMCA 幼稚園将来展望職員タスクの設立(課題抽出と課題解決、中期的展望)

1. 課題の共有

- a. 収支均衡への方策 (2021 年度 624 千円、2022 年度 4,782 千円、2023 年度予算 -2,107 千円)
- b. 少子化への対応 (組織の変容と募集のありかた)
- c. 施設老朽化への対応 (園児がトイレを怖がる。開園中の手動入園の安全性、破損個所の修理)
- d. 今後の幼稚園の在り方を計画化 (2025 年ー設立 75 年。2030 年ー設立 80 年)
- e. 子ども・子育て新三法への検討 2024 年度より新法移行検討
- f. 評価

2. 課題の解決

- a. 募集の強化(年少クラス 22 名減少に対して運営変更 (1) B を広報する。
- b. 組織変容 (B. 1~4 による: 預り・園長保育、給食弁当の導入、保護者負担の軽減。)と募集体制の強化 (HP・SNS の利用、園児宅でのポスター掲示、こぐま広場のみずべ・児童館・小規模保育所への広報)
- c. 大型営繕の検討と施設の改修の検証 (大型営繕計画一策定中。建て替えのための江東区との協議ー待機児 0 となり幼稚園型こども園の開設と施設改修は不可。
- d. 将来構想委員会開設ー将来展望タスクでの課題解決と江東センターのありかたと方向性を協議ー幼稚園を中心とした地域包括的な働きのできるセンターへの移行。
- e. 幼稚園型こども園の取り止め(施設改修ならず)と新法幼稚園への移行検討(教職員優遇のための施設型給付金給付と現東京都私立幼稚園等教育体制支援事業補助金制度との比較)
- f. 2023 年度江東 YMCA 幼稚園自己評価 HP 掲載(学校関係者評価委員会による)

D. 江東 YMCA 幼稚園将来構想委員会 (課題解決~中期的展望)

- 1. 3 か年計画の策定 (2026 年設立 75 周年記念事業展開)
- 2. 江東幼稚園を中心とした地域包括支援センターへの移行(学法・財団との連携)
- 3. 地域が必要とする江東 YMCA 幼稚園のありかた。
- 4. 江東 YMCA 幼稚園の歴史的評価と将来構想(設立 80 周年に向けて) 中期計画策定。

II. 子ども・子育て新三法への対応の研究継続

A. 2024年度より新法へ移行予定

1. 都の私学助成対応を見て2023年秋までに見極める。
2. 隣地取得交渉

III. 幼児教育無償化への具体的対応の研究

A. 2022年度、2023年度保育料の値上申請

- B. 預り保育の開始と拡充（2022年度17時終了から2023年度18時終了へ）

IV. 教職員の質の向上

- A. キリスト教保育連盟、都私立幼稚園連合会、全東京YMCA、江東区私立幼稚園連合会の研修への参加と教職員会での共有化。

V. 保育・教育を通してのメッセージの発信

- A. 「子育て講演会」「チャリティラン」「ピンクシャツデー」「ウクライナ支援」国際協力募金への積極的参加。

VI. 地域活動・社会貢献への取り組み

- A. 都立木場公園内のガーデニング
- B. SDGsへの取り組み
- C. 江東ワイズメンズクラブ・江東コミュニティセンターとの協働・共催
- D. フードパントリーの協働

VII. 施設管理維持に努め教育環境を整える。

- A. 経年劣化に伴う修理修繕を行い教育環境を改善する。
- B. 再開発を見据え。重複投資にならないようにする、

東京YMCA 医療福祉専門学校運営報告

A. 学生への懇切丁寧な指導

コロナ禍の中にあっても感染予防を徹底し対面授業を行った。個々の学生の個性と特徴を把握し各人の課題解決と資格取得のための教育的な指導を徹底した。基礎学力を向上し、介護・作業療法への適正を取得できるための指導を行った。

特に留学生への日本語、専門学習指導だけでなくクラス運営、生活指導を行った。

B. YMCA ブランディングの推進

全国・東京・近隣 YMCA の専門学校と連携し YMCA ブランディングに沿った広報活動と教育地域活動を行った。業界団体、職能団体、行政とも連携して行うことが出来た。

C. 共生文化の熟成

留学生への国籍・学科・世代を超えた交流の場としての多文化共生の交流の場としての教育が実施され、多様性を生かした、それぞれの目標に向かった進路が開けていった。

D. 広報活動の充実

1. 学生数

・2022年度は介護科 67名。OT科 62名。2023年度の介護科 59名。OT科 61名であり全体とすると 2023年は9名減となる。

2. AO 入学前学習会を積み上げまず AO 入試の募集をし、HP・SNSによる情報発信の更新頻度をあげオープンキャンパスへの参加者を増やしている。

3. 多摩地区の約 60 高校を指定校とし、高校進路ガイダンスやポスター掲示、地域ボランティア活動、イベントの紹介に各校の進路指導室を訪ね高校との連携を深めている。

4. 専門実践教育訓練給付金制度の指定講座となることを目指した。

E. 付帯事業の充実

1. 国立地区での地域福祉の振興のため実務者研修や EPC 研修生受け入れを行うことを目指した。

F. 大型営繕の実施全エアコンや温水用ボイラーの更新をすることが出来た。

を新しいものに更新できた。

G. 教職員体制の充実と育成

1. 2023年度より、校長広報担当者体制から広報担当職員を卒業生から1名採用した。新採用職員として中国出身の職員を迎えることが出来た。介護業界との交流、留学生への対応等も強化出来ようになった。

しのめこども園

A 財政的安定に努める

- 1) 加算制度・職員配置等を精査し教員の補充に努めたが、教員を計画通り獲得をすることができなかった。補助金の加算を得るためには、こども園と契約をする教員の増員が重要である。より教員のリクルートの強化に努め、経営的安定をはかる。

1. 安定的な園児募集に努める

- 1) 感染対策を講じ、日常保育の充実を図った。また日常保育の延長線上にある行事（運動会、しなのめ祭り、遠足、プール、クリスマス礼拝等）に関しては、中止にするのではなく、どの様に工夫をしたらできるかを教職員で問いながら、実施をした。
- 2) 土曜保育に関しては、計画の教員確保ができなかったため再開することができなかった。
- 3) 未就園児の来園機会として、運動会に招待をすることができた。しかし夏に開催したしなのめ祭りではコロナ禍のためクローズとした。
- 4) 説明会では来園型を復活させ、オンライン型も引き続き実施した。見学会は園長、事務長、主任の3名体制で対応し、見学申込者数の確保をはかった。
- 5) HP の活用・FB やインスタグラムの活用については、日々園の様子や行事をタイムリーにアップし保護者から好評であった。今後は園児の保護者以外の閲覧数を増やすことを模索しなければならない。
- 6) 「マイ保育園ひろば」を後期から実施し、未就園児の来園に努めた。
- 7) 園児募集に関して

▼説明会【来園型】

(2022年4月) — (2023年4月)

来園者数： 開催していない — 186名

▼説明会【オンライン型】

(2022年4月) — (2023年4月)

申込者数： 330名 — 154名

*説明会総数：(2022年4月) — (2023年4月)

申込者数： 330名 — 340名

▼見学会

(2022年4月) — (2023年4月)

来園者数： 175名 — 151名

▼入園願書申込者

(2022年4月) — (2023年4月)

申込者数： 100名 — 96名

▼入園試験受験者

(2022年4月) — (2023年4月)

募集数	:	70名	—	70名
受験者数	:	88名	—	86名
合格者数	:	73名	—	72名
辞退者数	:	17名	—	13名

▼園児数

(2022年4月) — (2023年4月)

0歳児	:	6名	—	6名
1歳児	:	12名	—	12名
2歳児	:	12名	—	12名
年少	:	83名	—	74名
年中	:	90名	—	80名
年長	:	82名	—	85名
計	:	285名	—	269名

2. 教職員の質的向上

- 1) オール東京保育事業部、キリスト教保育連盟等の外部研修へ参加をした。またその他の外部研修会に関しても教員への参加を促し支援した。
- 2) 内部研修として子どもの権利の研修を企画・運営をし、江東 YMCA 幼稚園の教職員と合同で実施した。

3. 事務局体制の強化

- 1) ITC 化として、「バスキャッチ」というソフトを導入し、保護者の負担を軽減し、業務の軽減化をはかった。今後より正確でスピーディーな業務遂行を推進していく。

4. 保護者会活動の充実

- 1) 感染対策を講じ、おひさま会、オリーブ会、コーラスグループ「すまいる」等の活動を復活させた。
- 2) しののめ祭り、10周年記念事業の実行員会を組織し、おひさま会・オリーブ会・コーラスグループへの活動協力及び支援を行い絆を深めた。

5. 開設10周年記念事業の実施

- 1) 10周年記念事業を行うにあたり、ベイサイドワイズ、おひさま会、オリーブ会コーラスグループと一緒に実行委員会を立ち上げ準備を開始した。下部組織として

卒園児の中学生、・高校生をジュニアリーダーとして巻き込み、企画・運営を中心にを行った。ジュニアリーダー会、当日の運営には約40名のジュニアリーダーが関わった。3月19日の当日は、約400名強の卒園児が参加をした。

6. 保育・教育を通じて社会的メッセージの発信

- 1) チャリティーランは保護者・教職員混合チーム4チームがエントリーし楽しく取り組むことができた。
- 2) クリスマス献金を江東豊洲昭和大学病院の医療従事者の方へ贈ることができた。
- 3) 子育て講演会の実行委員として企画・運営を行いオンラインで参加をした。
- 4) ピンクシャツ DAY に賛同し、園児たちへ「いじめの紙芝居」を読み聞かせして理解を求めた。

7. 地域活動、社会貢献活動（環境）への取り組み

- 1) 東京ベイサイドワイズとの協力・共催として、園児家族を対象とした潮干狩りを計画・実施した。
- 2) 「ワカメの育成活動」の継続的取組を行った。東京海洋大学・築地関係者等との協力を継続した。
- 3) 他 NPO 法人が取り組んでいる環境改善プログラム情報収集を行い、体験会に参加をした。そして園長が NPO 法人の会員として登録をした。
- 4) コロナ禍初となるしののめ祭りを開催した。ベイサイドワイズとおひさま会と一緒に実行委員会を組織し実施した。

8. 施設管理維持に努め、教育環境を常時整える

- 1) 経年劣化に伴う修理修繕に対して、江東区やグランチャ東雲に相談をし速やかに対応をした。修繕計画を作成することはできなかった。

9. その他

II 理事会・評議員会

A 理事会

2022年度に開催された理事会は以下の通りである。

開催日		内容
5月30日	(月)	2021年度決算案について 2021年度監査報告書について 2021年度事業報告書について
9月28日	(水)	東京YMCA学院監事選任について 江東YMCA幼稚園園則改訂について 東京YMCA学院ハラスメントの防止等に関する規則について
2月20日	(月)	2022年度運営方針案について 東京YMCA学院監事選任について 東京YMCA学院給与規定について
3月27日	(月)	2023年度運営方針及び学部計画(案)について 2022年度決算予想及び2022年度補正予算(案)について 2023年度予算(案)について 東京YMCA学院人事について

B 評議員会

2022年度に開催された評議員会は以下の通りである。

開催日		内容
5月30日	(月)	2021年度決算案について 2021年度監査報告書について 2021年度事業報告書について
9月28日	(水)	東京YMCA学院監事選任について 江東YMCA幼稚園園則改訂について 東京YMCA学院ハラスメントの防止等に関する規則について
2月20日	(月)	2022年度運営方針案について 東京YMCA学院監事選任について 東京YMCA学院給与規定について
3月27日	(月)	2023年度運営方針及び学部計画(案)について 2022年度決算予想及び2022年度補正予算(案)について 2023年度予算(案)について 東京YMCA学院人事について

Ⅲ 学生数園児数等

東京YMCA学院園児数学生数等

2023年3月1日現在

江東幼稚園

区分	定員	開始	現在数	2021年度
年少	50	41	42	37
年中	55	38	37	45
年長	55	42	40	48
合計	160	1	119	130

しののめこども園

保育園	定員	開始	現在数	2021年度
0歳	6	6	6	6
1歳	12	12	11	12
2歳	12	12	12	12
計	30	30	30	30
幼稚園	定員	開始	現在数	2021年度
年少	90	82	87	84
年中	90	88	87	82
年長	90	81	87	79
計	270	251	261	245
合計	300	292	291	275

医療福祉専門学校

(休学者含む)

区分	定員	開始	現在数	2021年度
介護福祉科				
1年	80	29	29	41
2年	80	38	35	36
計	160	67	64	77
作業療法学科				
1年	30	19	18	31
2年	30	26	25	17
3年	30	17	17	10
計	90	62	60	58
合計	250	129	124	135

江東幼稚園教職員数

(職員に体育講師を含む)

園長	教諭	助手	職員	合計
1	7	7	4	19

医療福祉専門学校教職員数

校長	介護教員	OT教員	職員	合計
1	5	6	6	18

しののめこども園教職員数

(職員に体育講師を含む)

園長	主任	教諭	施設長	非常勤	看護師	職員	合計
1	1	15	0	12	1	7	37